校　正　証　明　書

依　頼　者	XXXXX
住　　所	XXXXX
品　　名	XXXXX
型式又は性能	XXXXX
製造番号	XXXXX
管理番号	XXXXX
製　造　者	XXXXX
校正項目	XXXXX
校正方法	XXXXX
校正室の環境	次頁以降のとおり
校正年月日	XXXX年 XX月 XX日
校正実施場所	XXXXX

校正結果は次頁以降のとおりであることを証明します。

XXXX 年 XX 月 XX 日

東京都八王子市南大沢四丁目4番地4
一般財団法人 日本品質保証機構
計量計測センター
所 長　　X X　X X

この証明書は、計量法第144条第1項に基づくものであり、特定標準器（国家標準）にトレーサブルな標準器により校正した結果を示すものです。書面による承認なしに、この証明書の一部分のみを複製して使用することを禁じます。電磁的なファイルコピーによる複製及びカラー/白黒での印刷については、制限いたしません。
当センターは、ISO/IEC 17025:2017に基づく校正機関として認定されています。

1. 校正結果

温度

標準の値(℃)	被校正品の指示値(℃)	拡張不確かさ(℃)	備　考
20.0	19.9	0.4	

相対湿度

標準の値	被校正品の指示値(%)	拡張不確かさ (%)	備　考
30	29.8	2.0	
50	49.5	2.0	
80	80.1	2.0	

気体絶対圧力

標準の値 (hPa)	被校正品の指示値(hPa) 昇圧	降圧	拡張不確かさ (hPa)	備　考
860.00	859.1	859.2	0.50	
1000.00	999.2	999.2	0.50	
1060.00	1059.3	1059.3	0.50	

拡張不確かさは，包含係数 k=2 から決定したもので，約 95 %の信頼の水準をもつと推定される区間を定める。

以下余白

2. 校正条件：

・校正は，標準器との比較測定により実施した。

（温度・相対湿度）

・相対湿度の基準となる湿潤空気の温度は，20 ℃とした。
・温度校正は，恒温槽及び標準湿度発生装置を使用し実施した。
・湿度校正は，温湿度計を JIS B 7920 に記載された二圧力法の原理による標準湿度発生装置の試験槽に設置し実施した。
・校正を実施したときの校正室の環境条件
　温度：20.1 ℃ ～ 25.8 ℃
　相対湿度：48 % ～ 56 %
　大気圧：992 hPa ～ 1006 hPa

（気体絶対圧力）

・圧力値は絶対圧力であり，空気を圧力媒体とした。
・校正開始前に予備圧試験を 2 回行った。
・測定は昇圧・降圧の往復を 3 回行った。
・昇圧時，降圧時それぞれについて，上記 3 回の平均から，指示値を算出した。
・圧力保持時間は 30 秒とした。
・電源はバッテリーで，2 時間以上の通電後校正を行った。
・指示値は，器物の底面の高さを基準レベルとした値である。
・校正を実施したときの校正室の環境条件
　温度：22.1 ℃ ～ 22.3 ℃
　相対湿度：48 % ～ 49 %
　大気圧：1006 hPa ～ 1007 hPa

3. 使用した標準器等

品　名	型式又は性能	機器番号	製造者名
（温度・相対湿度）			
デジタル温度計			
本体	××××	××××	××××
センサ	××××	××××	××××
二圧力法	××××	××××	××××
湿度発生装置	××××	××××	××××
（気体絶対圧力）			
デジタル圧力計	××××	××××	××××

特記事項：　校正品の受理後，修理及び調整を行わず校正を実施した。

以上